

早稲田大学 社会科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	09年度は大問ごとに初めに記述式、後半に語群選択や正誤判定問題が続いていたが、10年度は記述式が消滅して全問マークシートの選択問題となった。いままで記述式に易しい問題が目立っていたため、正誤判定問題の比重が高まって難化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	中国古代： 春秋戦国時代・諸子百家	問1－aの河南省鄭州は殷中期の都と推定される遺跡で1950年に発見された。河南省安陽市の殷墟とは別の遺跡。cでいう殷最後の王は紂王が正しい。桀(問題文中の「傑」は誤り)王は夏の最後の王。dの采邑は諸侯がその臣下に与える領地をさす。王が諸侯に与える場合は「封土」という。Eの犬戎に滅ぼされた都は鎬京が正しい。問2－cは「夫差」ではなく勾踐が正しい。問4－eは臨淄のこと。問10－aは「華南」ではなく華北が正しい。中国で発生する大反乱に全国的規模のものはほとんどない。特定の地域とのつながりは要注意事項である。同じくdは、全真教は金支配下の華北で成立した宗教だが、中国王朝でいえば南宋時代にあたる。	難
Ⅱ	インド通史	問1はゾロアスター教の悪神アーリマンはよしとして、涅槃(ガウタマが死去すること)は難しい。バラモン教の火神アグニも特殊な用語で消去法も困難である。問2－bのナンダ朝は基礎レベル。問3－aは「ローマ人」ではなく「ギリシア人」が正しい。問4－cはヴァルダナ朝時代のこと。問5－dのバフマニー(バフマン)朝は14世紀に成立したデカンのイスラーム王朝。問6の①は「モルッカ」ではなく「マラッカ」、⑤は「アンリ2世」ではなく「アンリ4世」が正しい。問7は⑤(プラッシーの戦い)→①(ブクサールの戦い)のペアがわかると二択に持ち込める。問8－eの「3回」は「2回」が正しい。問10－eは「第二次」ではなく「第三次」が正しい。	一部難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	19世紀の欧米諸国	<p>問1-cの「リスト」は独人経済学者。問2-eのボードウィン<small>（ドイツ）</small>は労働党ではなく保守党が正しい。問3-aの『イギリスにおける労働者階級の状態』はエンゲルスの著作。高校レベルではないが消去法で対処可能。問5-dは1945年ではなく1946年が正しく。また「共産党を排除」の部分も誤り。問6は③（優位を占めたのは大ドイツ主義ではなく小ドイツ主義）・⑤（フェルディナント1世ではなくフリードリヒ＝ヴィルヘルム4世）が誤り。問7-eのパラツキーはポーランドのコッシュェトと並んで頻出事項。問8は単に工業生産1位米・2位独・3位英を数字で確認すること。問9-dのウィッテはポーツマス会議の露全権と十月宣言後の首相としては知られているが蔵相という地位はきつい。ただ、この選択肢だと消去法も可能である。</p>	一部難
Ⅳ	中東史	<p>問1-eのチェーラ朝は南インドのタミル人王朝。問2-bのザイド派<small>（北イエメン）</small>の北イエメン建国を一本釣りするのはほとんど不可能。丹念に消去法で行くしかない。aのヒジャーズ王国建国はイブン＝サウードではなくハーシム家のフセイン、cはムスリム同胞団ではなくワフド党、dのレザー＝ハーンは「反英」ではなく「親英」、eのヨルダンは仏ではなく英の委任統治領が正しい。問3-③のシリアと④のイラクはスンナ派が多数を占める。ドルーズ派とはレバノンを中心に分布するシーア派の一派。問4-dのイスラエル首相は「ラビン」ではなく「ベギン」が正しい。問5-aのイランはアラブ人の国家ではなく、当然アラブ諸国連盟にも参加していない。eは、エジプト革命が1952年7月なのにリビアの独立は前年の1951年で、影響を受ける側にはない。問6-bはメキシコの米系石油資産国有化（1938）もあり不適。問7は②のムバラクの大統領就任（1981）と③のマドリード会議（1991）が確認できると二択に追い込める。マドリード会議は近年の頻出事項。問9は①・③（トルコ・シリアは多国籍軍に参加）・⑤が誤り。問9-aのササン朝建国者はアルダシール1世が正しい。問10-aは「北部」ではなく「南部」、bは「ティグリス」ではなく「ユーフラテス」、dは「アブー＝アッパース」ではなく「ハールーン＝アッラシード」が正しい。eはティムール朝ではなくサファヴィー朝が正しい。</p>	一部難

[総合コメント]

全体として非常に難しい印象を受ける。しかし、そうはいつでも基本的知識で確実な得点の可能な問も少なくない。まずは、こういった手の届きやすい問題でしっかり点を積み重ねることが肝要である。次に何とかしたいのが、正誤のポイントが非常に細かい設問である。まず、「正しい」文章の内容が高校レベルを完全に逸脱している(例：I－問10のeの「道士を試験によって官吏に登用する制度」)。幸いに誤った文は1つ選ぶようになっているので、誤った部位を見つけ出したら多少の不安は無視し、知らない内容だが多分正しいのだろうぐらいに構えないとやっていられない。冒険のようだが、意外にこれが得点への近道である。このような、高校レベルを無視した設問がある以上、受ける側も割り切りが必要である。また、消去法が有効なものもあるので簡単にあきらめないでもらいたい。年代配列問題は、自分の持っている知識の範囲内で選択肢のすべてを配列することは不可能に近いので、ある程度選択肢を絞ったあとはパターンをくらべつつ、四択を三択に、さらに三択を二択へと追い込んでいく粘り強さが必要である。